

平成30年度 公開授業研究会 全体発表

【主題】

「教育活動全体で取り組む自立活動の指導」
(中間報告)



研究主任 前林宏典



本日の発表内容

I 研究主題設定の理由

II 研究の目的と方法

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法

III 本年度の研究の取組

IV 本日の日程について

本校の概要について

鳴門教育大学附属特別支援学校 (参考：学校要覧)

- 知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校



鳴門教育大学附属特別支援学校 (参考：学校要覧)

●児童生徒数 59名 (平成30年度)

小学部18名 (1学年3名の複式学級)

中学部18名 (1学年6名)

高等部23名 (1学年8名)

●教員構成→特別支援学校
小・中学校

約半数ずつ在籍

I 研究主題設定の理由

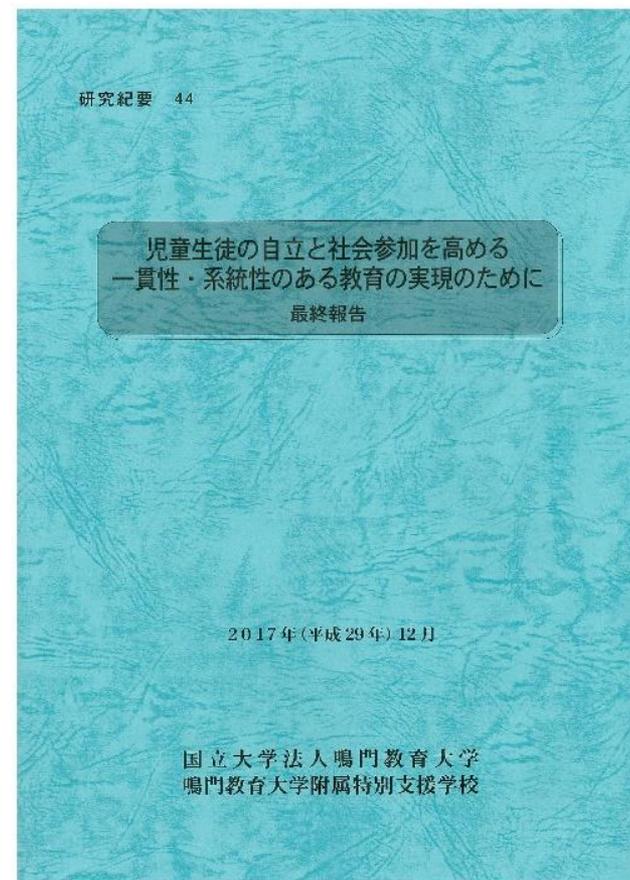
II 研究の目的と方法 { 1 研究の目的 2 研究の方法

III 本年度の研究の取組

IV 本日の日程について

I 研究主題設定の理由

●昨年度までの4年間、本校では「児童生徒の自立と社会参加を高める一貫性・系統性のある教育の実現のために」という研究主題の下、**生活単元学習**に焦点を当て研究を進めてきました。



↑研究紀要44

I 研究主題設定の理由

これまでの成果と課題、
児童生徒の実態を踏ま
えた研究テーマの検討



教員にアンケート実施
(平成30年1月実施)

アンケートの集約→

新学習指導要領を
ふまえて

自立活動

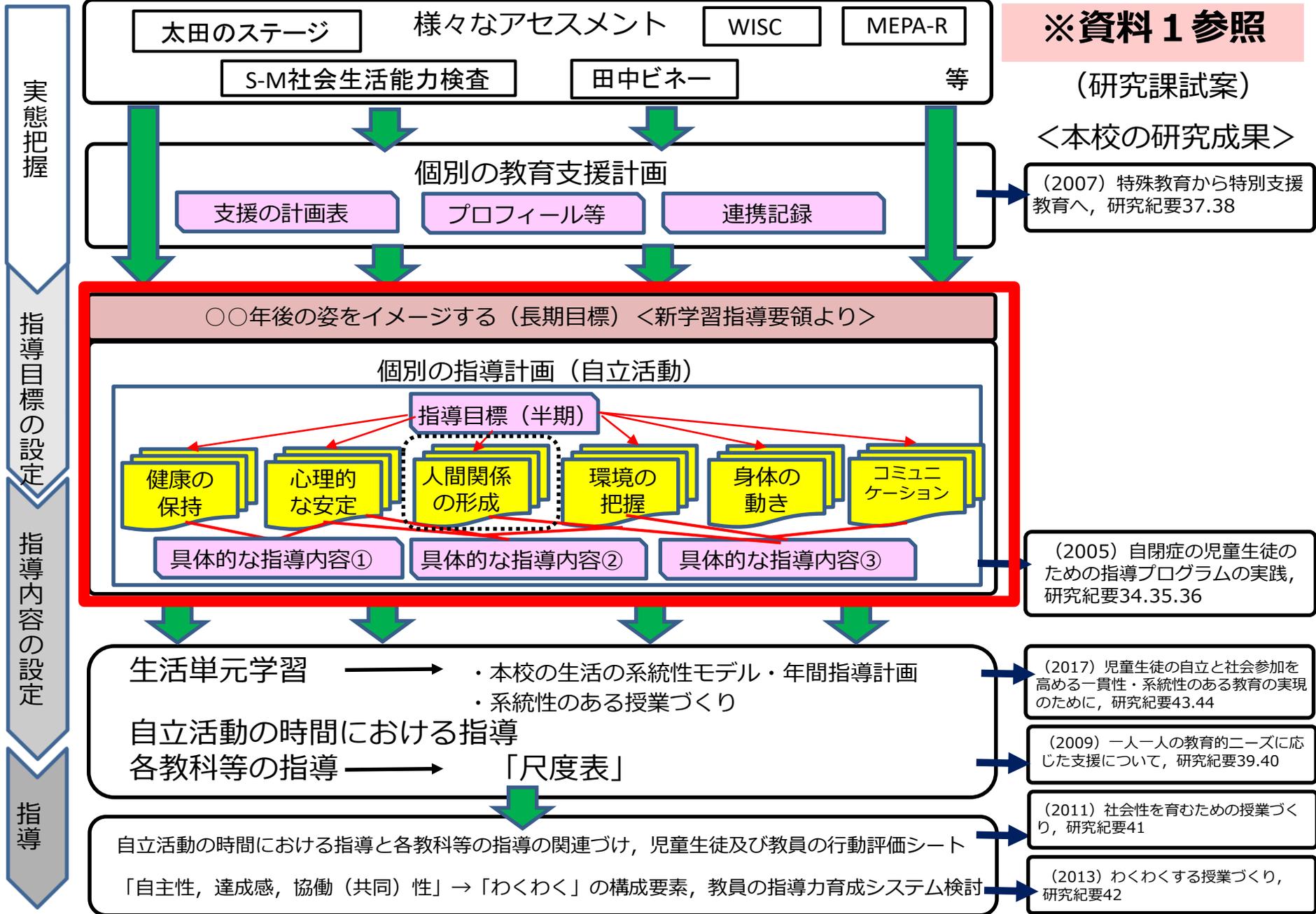
作業学習

教科

授業改善

教員養成

個別の指導計画書式改訂



I 研究主題設定の理由

教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて
—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—
概要

平成29年8月29日

改革の目的

教員需要の減少期の到来の一方で、教員としての専門性の高度化が求められる今日、我が国の教員養成の中心的役割を果たすべき国立教員養成大学・学部等が、限られた資源の中で、エビデンスに基づいて教員養成機能を着実に高め、我が国の学校教育全体の質の向上をリードすること。

教員養成機能の強化

- 確実なPDCAサイクルの実現
教員養成における量的・質的なものを含む総合的な観点からのエビデンスに基づく目標の設定、実行、結果の検証、評価を通じて着実に課題を改善する、目に見える形のPDCAサイクルの実現
- 「協議会」を通じた地域との連携
法定化された教育委員会等との「協議会」への参画を通じた、教員のライフステージに応じた資質向上への体系的な関与と、地域の最新のニーズを踏まえた教員養成カリキュラムへの改善
- 教員就職率の引き上げ等
教員志望の高い学生等の受け入れ等を通じた教員就職率の向上や、実践探究の場と学問探究の場の両方に軸足を置く大学教員の比率の向上、「教員養成学」に相当する学問分野の発展による教育の質の向上
- 教職大学院の教育内容の充実
教員養成機能の修士課程からの移行、学校現場の実情に即した実践的な教科領域の教育の導入、学部と教職大学院との一体化、学校外の資源や「理論と実践の往還」の手法等を活用した最新の教育課題への対応
- 現職教員の教育・研修機能の強化
教職大学院を活用して、教員の養成のみならず現職教員の教育・研修の機能も強化
- 予算、人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化
・各地域の今後の教員需要の推移等に基づく入学定員の見直し
・近隣の国公立大学との間で、一部教科の教員養成機能の特定大学への集約や、共同教育課程の設置等の連携・協力
・総合大学と教員養成単科大学など、大学間で教員養成機能を統合
・附属学校の現在の規模や学校数等の検証 など
予算、人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化について、各大学が、第3期中期目標期間中(平成33年度まで)に一定の結論をまとめるべき。
併せて、国は、改革を進める大学に対して財政面を含む支援を検討するとともに、各大学の機能強化と効率化を後押しする大学設置基準の改正を検討するべき。

附属学校の存在意義の明確化と大学のガバナンス

- ・公私とは異なる国立大学附属学校としての存在意義・役割・特色の明確化
- ・「入学者の選考—教育・研究—成果の還元」の有機的なつながりの明確化
- ・教職生活全体を見据えた教員研修に貢献する学校への機能強化と、校長の常勤化

「国立大学附属学校園」としての

存在意義
役割
特色
独自性

→ 明確化

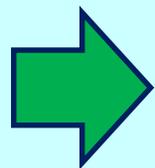
文部科学省（2017）

← 教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—概要

I 研究主題設定の理由

本校職員構成は...

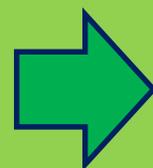
特別支援学校
小・中学校



ほぼ半数ずつ在籍



- ・本校で学んだこと
- ・研究を通して開発されたツール



地域の学校
で活用

I 研究主題設定の理由

(2) 小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領

(特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編p19,p20より抜粋)

- ① 総則における特別な配慮を必要とする児童生徒への指導
- ② 特別支援学級における自立活動
- ③ 通級による指導における自立活動
- ④ 個別の指導計画等の作成

特別支援学校だけでなく、小・中学校でも自立活動の必要性が示されている

調和的発達



日常生活の指導, 生活単元学習, 作業学習, 遊びの指導
生活, 国語, 算数, 音楽, 図画工作, 体育, 道徳 等



全ての児童生徒に指導

調和的発達の基盤

自立活動

(障害による学習上または生活上の困難を改善)



一人ひとりに応じた指導

※下山 (2018) 「知的障害特別支援学校における自立活動の指導の現状と改善の方向性」
実践障害児教育2018.3月号p12より抜粋

見たい景色が
見えるためには

通常の
各教科等

うちの子流～発達障害と生きる

<http://nanaio.hatenablog.com/entry/2016/05/20/225634>

より引用, 一部改変



通常の学級

通級による
指導

支援学級
支援学校

自立活動

自立活動

特別支援
の教科

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

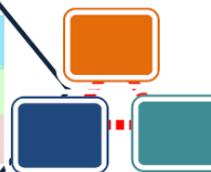
学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



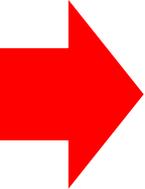
研究主題

「教育活動全体で取り組む
自立活動の指導」

本日の発表内容

I 研究主題設定の理由

- 1 本校の概要
- 2 研究主題設定の理由



II 研究の目的と方法

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法

III 本年度の研究の取組

IV 本日の日程について

<学校研究の目的>

※資料 3 参照

新学習指導要領の視点を踏まえ、
「自立活動における指導内容設定表」
を作成することを通して、児童生徒の
課題を明確にし、その課題解決に向け
た授業改善を行いながら、教育活動全
体で取り組む自立活動の指導の方向性
を検討する。

<学校研究の仮説>

児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために、「自立活動における指導内容設定表」の作成や共通理解を通して、児童生徒の実態や課題を明確にし、その課題解決に向けた授業実践や授業改善を行っていくことを通して、教育活動全体で取り組む自立活動の指導の実践ができるようになるであろう。

<研究の意義>

「自立活動における指導内容設定表」の活用



児童生徒の実態把握，必要な指導内容の設定



授業実践，授業改善に活用



巡回相談：高校での通級指導等に活用
研究の成果をセンター的機能に生かす

<研究の方法>

対象児童生徒を決め

「自立活動における指導内容設定表」を作成



授業研究等における授業改善



「自立活動における指導内容設定表」の
評価・改善



<今年度対象とする授業>

小学部…生活単元学習 {
・昨年度までの研究継続
・集団指導

中学部…自立活動の時間における指導
・時間における指導→般化

高等部…作業学習
・キャリア教育の視点

新学習指導要領への移行に向けて、それぞれの授業において、新学習指導要領を踏まえていくことを意識して取り組んだ。

研究の取組（本年度について）

4～7月 研究主題設定・全体研究会・授業研究



7～8月 自立活動に関するアンケートの実施
対象児童生徒「自立活動における指導内容
設定表」作成・協議



9～1月 本学井上とも子特命教授との協議・授業研究



2月 公開授業研究会 研究の視点を踏まえた授業

本日の発表内容

I 研究主題設定の理由

- 1 本校の概要
- 2 研究主題設定の理由

II 研究の目的と方法

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法

III 本年度の研究の取組

IV 本日の日程について

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究の取組（本年度について）

4～7月 研究主題設定・全体研究会・授業研究

7～8月 自立活動に関するアンケートの実施
対象児童生徒「自立活動における指導内容
設定表」作成・協議

9～1月 本学井上とも子特命教授との協議・授業研究

2月 公開授業研究会 研究の視点を踏まえた授業

Ⅲ 本年度の研究の取組

授業研究



(1) 授業実践

- 各学部の授業公開
- これまでにあった本校の「自立活動における指導内容設定表」の活用

(2) 研究協議

- 各学部の授業内容や運用，特色などの現状報告
- 自立活動との関連について

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（小学部）



- ・生活単元学習（1組）
- ・単元名：みんなで水遊びを楽しもう～びしょびしょどろんこ大作戦
- ・自立活動との関連
 - 身体の発達を促す上での「遊び」を取り入れた学習
 - 鴨島病院の理学療法士からの指導助言を授業で取り入れる
 - 集団での活動の中で、一人ひとりの目標や課題にアプローチできる
- ・自立活動における指導内容設定表について
 - 実態を踏まえて、改めて目標を再検討する必要があることが分かった

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（中学部）

- ・ 自立活動の時間における指導（Bグループ）
- ・ 題材名：「できる」を積み重ねよう。
- ・ 自立活動担当者会を実施し、目標、手立て、教材の妥当性の検討

・ 新学習指導要領との関連

- 評価と指導の一体化の一層推進「パフォーマンス評価
- 本人の行動だけでなく環境や援助とのかかわりを含めた記述
- 応用行動分析に基づくABC分析を実施した評価

自立活動における指導内容設定表について

- 現行のものでは具体的な指導手続きまで書けない
- 立案シートを作成、ビデオフィードバックの実施

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（高等部）



- ・ 作業学習（木工班）
- ・ 単元名：木材加工製品の製作・販売（学校祭）
- ・ 自立活動との関連
 - 自立活動に焦点を当てた本単元の目標が設定されていた
 - 作業ノートによる自己評価
- ・ 自立活動における指導内容設定表について
 - 卒業後の進路を意識したキャリア教育の視点をふまえた教育支援計画と自立活動との繋がり的重要性

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会を通して（前期）

【良かった点について】

- ・各学部の特徴ある授業を見ることができた。
- ・授業が児童生徒の実態に応じて展開されていた。
- ・研究の視点「自立活動との関連」「新学習指導要領との関連」について、指導案に反映されていた。
- ・自立活動について見直したり、考えたりする機会となった。

【課題として見られた点について】

- ・新学習指導要領に対するさらなる理解
- ・指導案の書式
- ・「自立活動における指導内容設定表」の活用について
（○年後に向けて「何ができるようにするか」という視点等）

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究の取組（本年度について）

4～7月 研究主題設定・全体研究会・授業研究

7～8月 自立活動に関するアンケートの実施
対象児童生徒「自立活動における指導内容
設定表」作成・協議

9～1月 本学井上とも子特命教授との協議・授業研究

2月 公開授業研究会 研究の視点を踏まえた授業

自立活動に関するアンケートの実施

先生方への質問（その1・表）

回答欄の〇を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。（可：●、●／ 不可：○、○／）

ご自分のことについてお答え下さい。

所属学部	①…小学部 ②…中学部 ③…高等部 ④…その他	① ② ③ ④
学級担任	①…学級担任 ②…主事・専科 ③…その他	① ② ③
前任校	①特別支援学校 ②小・中学校 ③高等学校 ④その他	① ② ③ ④

以下の各問いについて、あなたの考えに最も近い番号をマークして下さい。
 ①…あまりはない ②…どちらかといえばはない ③…どちらともいえない ④…どちらかといえばはある ⑤…あてはまる

1.	自立活動は知的障がい特別支援学校において、重要な指導である。	① ② ③ ④ ⑤
2.	自立活動は学習活動全ての土台となる指導領域である。	① ② ③ ④ ⑤
3.	「自立活動」と「自立活動の時間における指導」の違いを説明することができている。	① ② ③ ④ ⑤
4.	自立活動は学校全体で一貫した取組が必要である。	① ② ③ ④ ⑤
5.	自立活動の指導にかんして、学校全体で一貫した取組がなされている。	① ② ③ ④ ⑤
6.	児童生徒の障がいに応じた自立活動の指導は困難である。	① ② ③ ④ ⑤
7.	自立活動の指導には教員の専門性が必要である。	① ② ③ ④ ⑤
8.	自立活動の指導は児童生徒の共通する課題に注目し、集団指導を行う方が効果的である。	① ② ③ ④ ⑤
9.	担任している児童生徒の「自立活動の時間における指導」の指導目標を把握することができている。（学級担任のみ回答してください）	① ② ③ ④ ⑤
10.	学級内の児童生徒の「自立活動の時間における指導」の指導目標を把握することができている。	① ② ③ ④ ⑤
11.	自立活動の指導は真障がいの児童生徒を優先した集団指導よりも、個別指導の取組が組みやすい。	① ② ③ ④ ⑤
12.	「自立活動の時間における指導」の内容について、学級内で共通理解することができている。	① ② ③ ④ ⑤
13.	自立活動の指導にかんして同僚の教師から率直な指導やアドバイスを聞くことができる。	① ② ③ ④ ⑤
14.	自立活動はICF（国際生活機能分類）の理念に基づいて行っている。	① ② ③ ④ ⑤
15.	「自立活動の時間における指導」の指導内容については、個々の担当教員に委ねられている。	① ② ③ ④ ⑤
16.	此学級の「自立活動の時間における指導」の内容を把握している。	① ② ③ ④ ⑤
17.	自立活動は児童生徒の日常生活への転化を容易化を意図して取り組んでいる。	① ② ③ ④ ⑤
18.	「自立活動の個別の指導計画」は、学級担任だけでなく他の教員と連携し検討することが重要である。	① ② ③ ④ ⑤
19.	自立活動は他の専門機関・専門家のアドバイスを活用することが重要である。	① ② ③ ④ ⑤
20.	「個別の自立活動指導計画」を有効に活用することができている。	① ② ③ ④ ⑤
21.	「個別の自立活動指導計画」を作成するために、保護者との連携を行っている。	① ② ③ ④ ⑤
22.	自立活動の目標や内容の選定に困難さを感じる。	① ② ③ ④ ⑤

☆ うらもありません。

先生方への質問（その2・裏）

※現状、感じられていることをご記入ください。（記入できる項目について）

	課題・問題点など	改善策・アイデアなど
個別の自立活動指導計画について	「個別の自立活動指導計画」の作成について（時期・活用具合など）	
個別の自立活動指導計画について	「個別の自立活動指導計画」の書式について	
自立活動に関する質問について	(1) 目標や内容の選定について	
自立活動に関する質問について	(2) 授業の進め方について	
自立活動に関する質問について	(3) 学級内での共通理解について	
自立活動に関する質問について	(4) 学部間の系統性について	
その他		

ご協力いただき、ありがとうございました。



25名から
回答

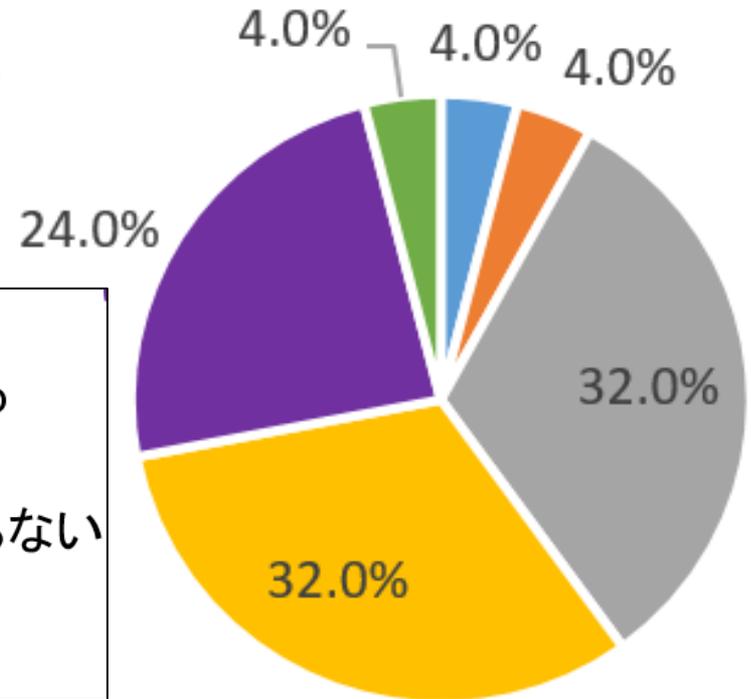
本校の自立活動の指導に関する実態を把握するために
 夏季休業期間に自立活動に関するアンケートを実施
 （マークシート＋記述式）

Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動に関するマークシート式アンケートより

5 自立活動の指導に関して、学校全体で一貫した取組がなされている。

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

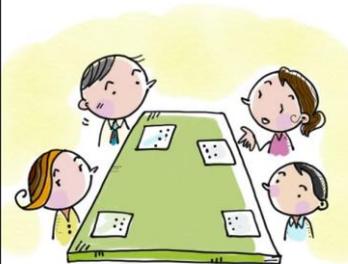


- 自立活動の指導に関して学校全体で一貫した取組がなされていないという回答が56%。
(できていると感じているのは8%)

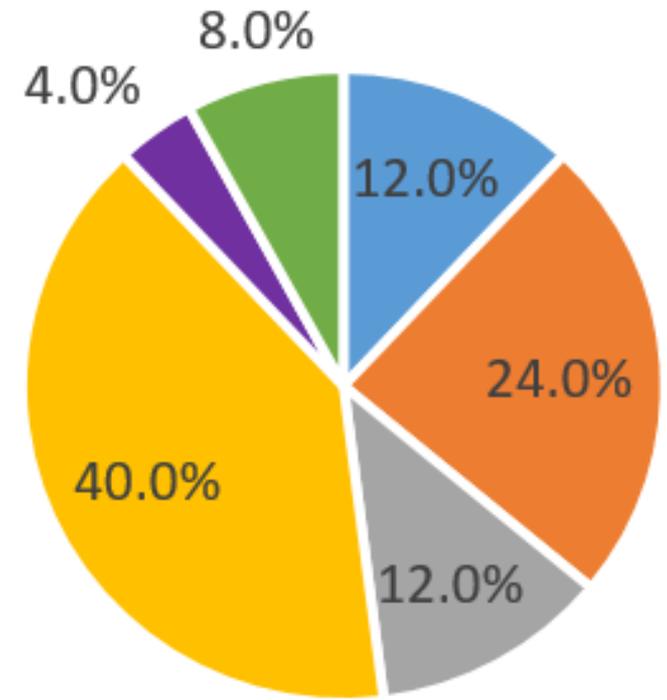
Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動に関するマークシート式アンケートより

12 「自立活動の時間における指導」の内容について学部内で共通理解することができる。



- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答



・自立活動の時間における指導の内容について学部内で共通理解することができると感じる割合は36%
(できていないと感じているのは44%)

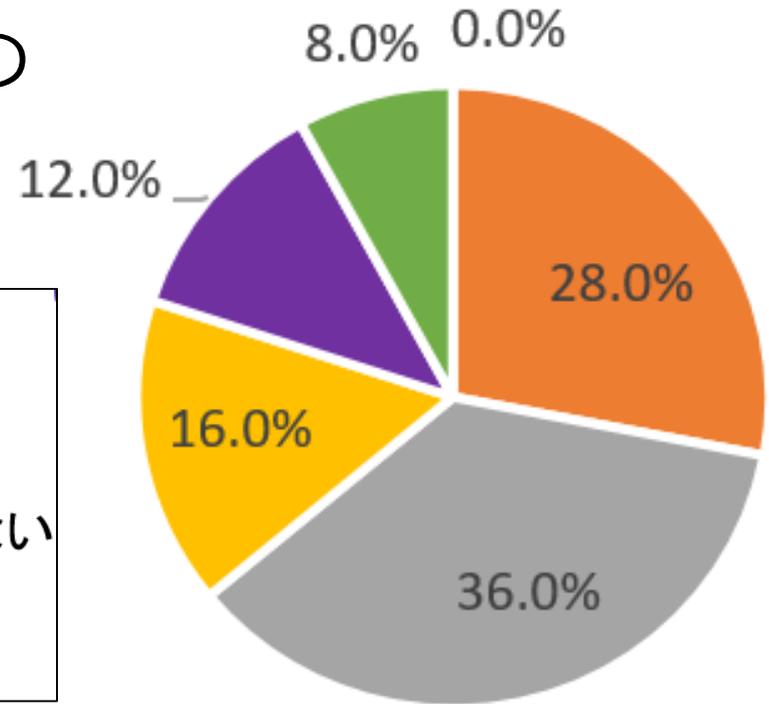
Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動に関するマークシート式アンケートより

22 自立活動の目標や内容の選定に困難さを感じる。



- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答



- ・ 自立活動の目標や内容の選定に困難を感じていると回答した割合は28%
(困難を感じていないと回答した割合も28%)

Ⅲ 本年度の研究の取組

記述式アンケートより

改善提案



<自立活動における指導内容設定表について>

※自立活動における指導内容設定表は現状では十分活用できていないのではないかと。

- 個別の教育支援計画から自立活動，各教科の個別の指導計画を繋げて考えられるような書式に改善が必要である
- 保護者や本人の願いを把握し，担任だけでなく学部教員全員で作成する
- 立案することで児童生徒のことがよく理解できたので，時間はかかるが1人ずつきちんと立案し，ケース会議等で活用できたら良い

Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動に関するアンケートから見えてきた課題

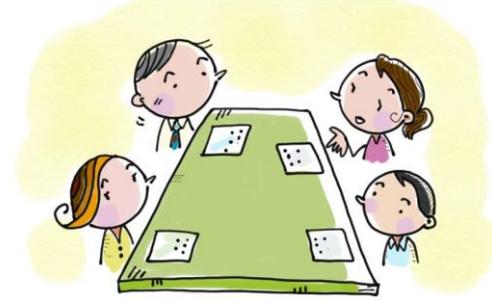
※各学部における自立活動のありかたの検討

※「自立活動の時間における指導」について、
学部内、学部間での共通理解

※活用できる自立活動における指導内容設定表
の書式の検討

Ⅲ 本年度の研究の取組

学部研究会を通して



「自立活動における指導内容設定表」の作成

→各クラス・グループで

2名ずつ対象児童生徒を決める

→対象児童生徒の「自立活動における指導内容設定表」について、学部内で協議し検討する。

→後期の指導に活用する

Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動における指導内容設定表について



【個別の教育支援計画】

- ・ 個別の教育支援計画NO.1, No.2



【自立活動における指導内容設定表】

- ・ 実態
 - ・ 教育的ニーズ
 - ・ 中心的課題
- 6区分27項目にあてはめ把握する



【個別の指導計画】

- ・ 各教科等の授業の目標

Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動における指導内容設定表について（現状）

【個別の教育支援計画】

- ・ 個別の教育支援計画NO.1, No.2

【自立活動における指導内容設定表】

- ・ 実態
 - ・ 教育的二一ズ
 - ・ 中心的課題
- 6区分27項目にあてはめ
把握する

【個別の指導計画】

- ・ 各教科等の授業の目標
- ・ 自立活動の目標

書式はあるが、活用が十分
になされていない。

現状ではこのようになっている

Ⅲ 本年度の研究の取組

自立活動における指導内容設定表の立案・協議を通して

【良かった点について】

- ・ 学習指導要領解説を読みながら立案することで、自立活動への理解が深まった
- ・ 学部内での児童生徒の実態の共通理解
(特に中・高等部は教科担任制なので、共通理解して指導に取り組むことは非常に重要)
- ・ 学部全教員で様々な視点、角度から児童生徒を捉える

【課題として見られた点について】

- ・ 教育支援計画→指導内容設定表→個別の指導計画
書式の連動性
- ・ 協議する時期
- ・ 本人および保護者の願いをより具体的に聞き取る必要
(現状は児童生徒によって「長期的」「短期的」願いが混在)

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究の取組（本年度について）

4～7月 研究主題設定・全体研究会・授業研究



7～8月 自立活動に関するアンケートの実施
対象児童生徒「自立活動における指導内容
設定表」作成・協議



9～1月 本学井上とも子特命教授との協議・授業研究



2月 公開授業研究会 研究の視点を踏まえた授業

Ⅲ 本年度の研究の取組

本学 井上とも子特命教授との協議より

「自立活動」を
どうとらえるのか？

Ⅲ 本年度の研究の取組

- ・ 自立活動がスキル形成になっていないか？

→ 「スキルが身についた」ではなく、生活が変わった、興味がかわった、過ごし方が変わったなど 常につながりを考える。その見方が主体的、対話的な学びに自然につながっていく。



Ⅲ 本年度の研究の取組

- ・一人ひとりの児童がどのように生きていくのかを考え、「27項目をとおしてその子どもを見る」ことがまず必要である

→地域でどのように生活していくのか、そのためにどのような力をつけるべきかを考えて指導できているか。

→児童生徒が持っている機能性を高めるための指導ができているか？その指導の完成形が何になるかを描けているか？



Ⅲ 本年度の研究の取組

- ・一人ひとりの児童がどのように生きていくのかを考え、「27項目をとおしてその子どもを見る」ことがまず必要である

→児童生徒が現在取り組んでいる事が将来、どのような力に繋がっているのか本人が分かっているのか？

→小・中・高と「つながり」を考えた指導になっているか？

(子どもの人生はつながっている。学部や教員が変わっても、指導はつながっていくべきである)

Ⅲ 本年度の研究の取組

- ・ 将来を見据えた地域でのアセスメントが必要である。



- 生活，家庭生活に密着したもの
- 保護者の気持ち（将来像をどのように描いているのか）
- どのように子どもが生きていくのか？
- 子どもは0歳から将来までつながっている。（学校は一部分）

Ⅲ 本年度の研究の取組

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

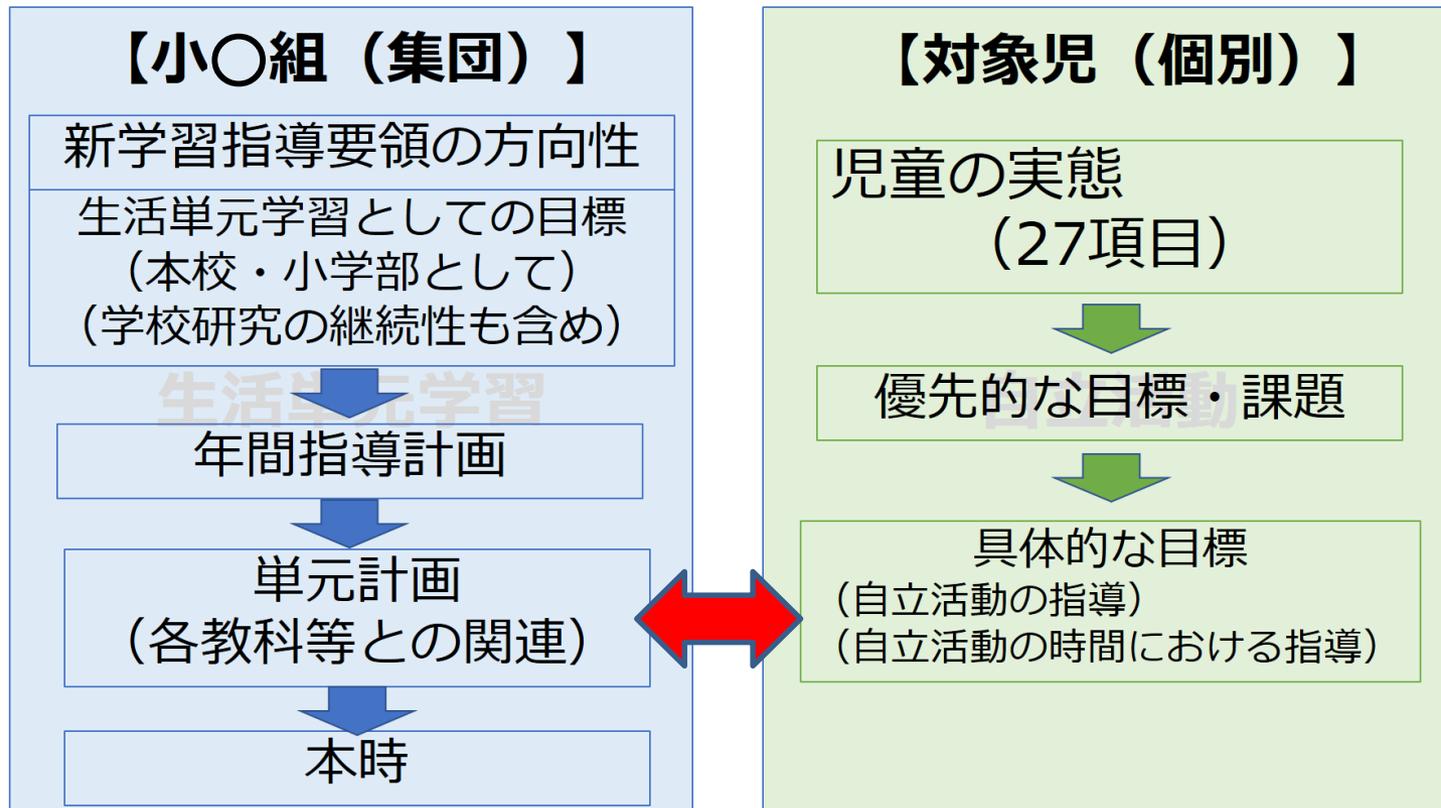
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（小学部）

- 生活単元学習（○組）
- 単元名：「まかせて○組みんなでつくろう楽しいクリスマス会」



Ⅲ 本年度の研究の取組

新学習指導要領との関連 (小学部授業研究会より)

【何ができるようになるか】

- 知識及び技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びに向かう力・人間性等の涵養

小学部 対象児童の指導目標より

☆教員からの質問に対して、適切に受け答えすることができる

【何を学ぶか】

- 各教科等との関連
→国語, 算数, 図工, 生活...
- 年間指導計画
→系統的な年間指導計画

【どのように学ぶか】

- 主体的な活動で
- かかわりのある活動で
- 個々の実態に応じた活動
- 単元化
- 適切な支援を受けながら

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（中学部）

- ・ 自立活動の時間における指導（Aグループ）
- ・ 単元名：主体的に活動しよう。



- ・ 自立活動における指導内容設定表について
→ 学部研究会を行い，生徒の実態の共通理解
→ 「自立活動・指導計画立案シート」を活用し，
生徒の実態を踏まえて生徒の指導目標を決めて，
学習活動の工夫や動機付け，強化の仕方や好子の
選定，教える手順等について，中学部全教員
で検討した。

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会（高等部）

- ・作業学習（委託作業：造花班）

- ・単元名：働く力を高めよう

- ・自立活動との関連

→作業学習の目標を達成するために、個々の実態に応じた手立てが実態から導き出されていた。
（指導案の対象生徒への支援より）

- ・自立活動における指導内容設定表について

→卒業後の生活を意識したキャリア教育の視点

→就業体験における実習先からの評価シートを活用し、より深く個々の実態の理解に努めた。



Ⅲ 本年度の研究の取組

研究授業・授業研究会を通して（後期）

【良かった点について】

- ・「自立活動における指導内容設定表」を活用して、児童生徒の実態を共通理解した上で、授業を実施することができた。
- ・対象児童生徒に対する指導・支援上の留意点や評価の観点を指導案に明記することができた。

【課題として見られた点について】

- ・「自立活動における指導内容設定表」のさらなる活用（現状ではまだ活用しにくさがある）
- ・各教科等を合わせた指導の捉え方について

Ⅲ 本年度の研究の取組

研究の取組（本年度について）

4～7月 研究主題設定・全体研究会・授業研究



7～8月 自立活動に関するアンケートの実施
対象児童生徒「自立活動における指導内容
設定表」作成・協議



9～1月 本学井上とも子特命教授との協議・授業研究



2月 公開授業研究会 研究の視点を踏まえた授業

本日の発表内容

I 研究主題設定の理由

- 1 本校の概要
- 2 研究主題設定の理由

II 研究の目的と方法

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法

III 本年度の研究の取組

IV 本日の日程について

IV 本日の日程について

公開授業 10:00～10:40



小学部・・・生活単元学習

中学部・・・自立活動の時間における指導

高等部・・・作業学習

※各授業場所については学習指導案集の中に
校内案内図を掲載しています。
ご確認ください。

IV 本日の日程について

公開授業 10:00~10:40



学習指導案における観点別学習状況の評価について

＜現行の4観点＞

「知識・理解」
「技能」
「思考・判断・表現」
「関心・意欲・態度」

＜新学習指導要領＞

「知識・技能」
「思考・判断・表現」
「主体的に学習に取り組む態度」

※特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）p271より引用

IV 本日の日程について

情報提供 11:00~11:30 体育館



情報提供：「五感を生かした活動に基づく地域での
発達支援」

情報提供者：

本学特別支援教育専攻 高橋眞琴 教授

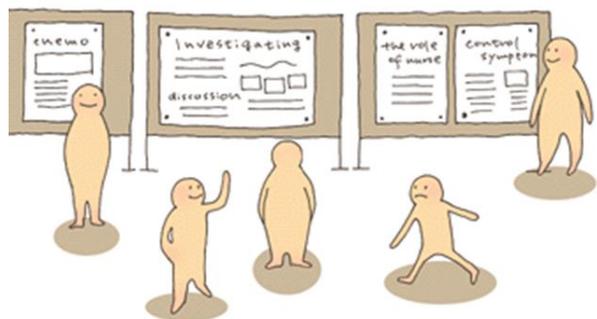
「通常学校における多感覚を活用した指導方法に関する実証的研究」（研究代表者：高橋眞琴）の助成を受け、研究成果の一部を発表していただきます。

IV 本日の日程について

実践紹介 12:30~13:30



今回の実践紹介は主に公開授業についての意見交換になります。



※実践紹介場所については
学習指導案集の中に校内案内図を
掲載しています。
ご確認ください。

IV 本日の日程について

講演 13:45～15:30



演題：「徳島県の特別支援教育に期待すること
～多様な学びの場と社会に開かれた教育課程
の編成～」

講師：中村 大介 先生

(文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)

場所：体育館

※質疑応答の時間も設けています。

ご清聴 ありがとうございます

- 公開授業や実践紹介を通し，本日ご参会の皆様からさまざまなご意見やご感想をいただけたら幸いです。
- アンケートへのご協力もよろしくお願いいたします。

